

11/2 秋バラ



昨夕、早めに会議が終わり、外へ出て空を見ると青い。これはさいわい、うつぼ公園でひと息つこう。バラも咲いているだろうしと向かった。バラ園の花たちは秋の西日に温かそう。まわり木のベンチもあたたまり、ノートを膝に広げた女性がぼおーとしていた。その先の空いたベンチに座り、こちらも小さな手帳をバッグからとり出した。ぼおーとはせず、このところ感じ、考えていることを書きとめた。こういう時間をもつのがある種の趣味。

11/6 楽しい

『仕事は楽しいのが一番』。日経夕刊のインタビュー記事のタイトル。たしかに、なぜなら、『好きこそ物の上手なれ』。“楽しい”、「満足で愉快的気分である。快い。豊かである、富んでいる」。“好き”、「気に入って心がそれに向かう、その気持ち」。個人的には早々簡単に使えないと感じている2つの言葉。

11/7 立冬

大阪はあたたかな立冬。朝のうちに2014年の手帳レフィルに旧暦などの書き込みをして今年の手帳の最後のページにはさみ込んだ。こういう作業をするだけで来年が身近になる。ちなみに来年は旧暦9月が2度ある。閏9月は10月24日から11月21日まで。この間はどの日もよい日和だそう。

11/9 ラジオ

朝、ラジオのAM放送でニュースを聴いていたら、そのうちラジオ小説が始った。アナウンサーが一人、語っていく。はじめは空耳だった。しだいに聞耳を立てた。情景がありありと目に浮かぶ。聴くだけ、読むだけでイメージができる、という技には縁がない。

11/13 紅葉



昨夕久しぶりに大阪城公園を歩いた。秋は過去をも意味する。まずはこの一年をふり返り、新しい年を思い、遠い未来を望む。そういう時間には散歩が一番、急に冷え込み紅葉もすすみそう。

11/15 厳しい寒さ

大山に工房をひらいて大阪から移り住んだ友人からハガキが届いた。先月奈良で開いた作品展に出かけたお礼。11月に入り、『過ごしやすい時期もあとわずか、厳しい寒さへと向かいます』と書いてある。そうでなくても創作は孤独で厳しい活動。冬の寒さがいっそう創造性をまたかき立てるのではないかと思うのは、人ごとだからか。

11/18 早朝の電車



十五夜の月を夜明け前に撮る。そのまま起きて支度をし、7時半に事務所へ着く。朝7時前後の地下鉄、ラッシュアワーでなくても、けっこう人は多い。ただし層は違う。早朝の電車に乗るといつも思う、社会の多面性を。知っているようで、知らない世界がある。

11/21 秋から冬へ



今日の天気は安定、紅葉見には絶好の日和。西宮の船坂でイチョウがはや散りはじめ、そうじに大変という便り。御堂筋のイチョウはこれからが見頃。そういえばイルミネーションはいつからか、と調べてみると12月1日から。ボジョレーも解禁となり、季節は秋から冬へ。明日は小雪。

11/25 『神農祭』



11月最終週、この土曜には12月に入る。平地の紅葉は今週が見頃か、今日の雨で散ってしまうのか。それを見越して22日、出かけがてらにちょっと紅葉見。歩き始めの道修町では、『神農祭』の露店風景もたのしめた。御堂筋のビジネス街の奥まったところにある「少彦名神社」。一度訪ねてみよう、人の少ないときに。

11/27 朝と夜の判断力

日の出はおそく、日の入りは早く、朝空を見上げれば頭上真上に下弦の月。いかにも早起き感あり。思考作業は午前中にやるのがベター。さらに、倫理的な判断も午前中の方がよくできる、というのはFMからのうけうり。アメリカの大学での調査結果らしい。経験的にも集中力が発揮できるのは午後2時ぐらいまで。大事な判断を夜にやるのはやめよう。

11/30 グランフロント北館西



グランフロント北館西側のイチョウ並木、あざやかな青空とスカイビルを背に冬のやわらかい陽射しにキラキラ。風もおだやかで、賑わいをさけて歩く回廊の足どりも軽やか。わざわざ建物の外を歩く人は少なく、この回廊はいつもほとんど独り占め。天井が高く一直線、環境音楽のようなピアノ曲が風のようにそよぎ、石造りの人工の川面が静かにゆれる。ほんの一瞬、異空間に入ったような感覚になるのがいい。それも5分ほどのことだけ。